

国語科学習指導案

令和5年12月8日（金） 第5校時 2年〇組教室

授業の視点

がまくんとかえるくんの表情や口調・様子などを具体的に想像したり、「幸せ度」を考えたりすることは、手紙を待つがまくんの気持ちとかえるくんの思いを読み取り、2人の気持ちになりきって工夫して音読するのに有効であったか。

I 単元の構想

1 単元名 「お手紙」〔学指要領：知(1)ク、思C(1)エ、カ〕

2 単元の目標及び児童の実態

| | 目 標 | 児童の実態 |
|--------------|---|-------|
| 知識及び技能 | ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、音読することができる。(1)ク | (削除) |
| 思考力、判断力、表現力等 | ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ ・文章を読んで、感じたことや分かったことを共有することができる。C(1)カ | (削除) |
| 学びに向かう力、人間性等 | ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。 | (削除) |

3 評価規準

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | ①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 |
| 思考・判断・表現 | ①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ①積極的に、場面の様子に着目し登場人物の行動を具体的に想像して、学習の見通しをもって、音読で演じようとしている。 |

4 指導及び評価、ICT 活用の計画（全10時間：本時第7時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

| 時 | 学習活動 | 知 | 思 | 主 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ・教材のねらいと活動の流れを確かめる。 ・物語を読んで、面白いと思ったところや、心に残ったところを見付ける。(い) 単元の課題 どうしようじんぶつをしたことやようすをそうぞうしながら、なりきって音読しよう。 | | | ① |
| 2 | ・文章と挿絵を手掛かりに物語を5つの場面に分け、教科書に番号を書き入れる。 | | ② | |
| 3 | ・各場面の「場所」「人物」「したこと」をワークシートに整理する。 | ① | | |
| 4 | ・第1場面を読み、がまくんとかえるくんの悲しくなった気持ちを想像する。(い) ・読み取ったことを振り返り、がまくんやかえるくんの気持ちを考えながら音読する。(あ) | | ① | |

| | | | | |
|----|---|--|-----------|---|
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> 第2場面を読み、手紙絵を書いたかえるくんの気持ちを想像する。(い) 読み取ったことを振り返り、かえるくんの気持ちを考えながら音読する。(あ) | | | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 第3場面を読み、がまくんとかえるくんがしたことや言ったことから気持ちを想像する。 読み取ったことを振り返り、がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら役割を分けて音読する。(あ) | | | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> 第4場面を読み、手紙がくることを知ったがまくんの気持ちを想像する。(い) 手紙の内容を聞いたがまくんの気持ちを読み取り、工夫して音読する。(あ) | | ① (本時) | |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> 第5場面で、手紙が届いた時の登場人物の会話を想像する。(い) 想像した会話を発表し合い、がまくんとかえるくんがどのような気持ちだったのかを話し合う。 | | ② | ① |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> 「この本、読もう」で紹介されているアーノルド・ローベルの他の作品を読んで、人物の様子や行動を中心に思ったことを発表し合う。 | | | ① |
| 10 | <ul style="list-style-type: none"> 「お手紙」の登場人物に、「ぼかぼかお手紙」を書く。 | | ② | |

※活用する学習支援ソフト等：(あ) タブレット (い) デジタル教科書

5 単元設定の理由

(1) 教材について

本教材は、アーノルド＝ローベル作「ふたりはなかよし」シリーズ中の一つの話であり、児童にとって身近な生きものであるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。主な登場人物であるがまがえるくんとかえるくんの2人が、手紙を通してお互いが相手のことを大切に思っていることを確かめ合うという、心温まる友情が主題となっている。

「だれも、ぼくにお手紙なんかくれたことがないんだ。」と言いながらも、手紙を待ち続けるがまくんの悲しい気持ちを汲み取り、手紙を出そうと思いつくかえるくん。この2人の友情を描いた物語である。自分の身近な存在である友達を意識し始める二年生にとって、共感しやすい教材だといえる。叙述を基にして、2人の会話や行動から気持ちを想像させ、2人の温かな交流や手紙のやりとりによって深まった友情を感じさせたい。

(2) 児童観について

(削除)

6 人権教育との関わり

児童が、その発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解するとともに、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが、様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにすることを達成させるため、児童の発達段階に応じて、必要な能力や態度を育成したい。特に、感性の観点から、自他の生命の尊さに気づき、自分だけでなく他の人を大切にする心に共感する気持ちを育てていきたい。そこで本単元では、がまくんとかえるくんの心情を想像したり音読したりしながら心の通い合いを読み取ることを通して、身近な人に親切にしたり思いやりの心で接しようとする人権感覚を身に付けさせたい。

II 本時の学習 (7/10)

- ねらい がまくんとかえるくんの表情や口調・様子などを具体的に想像したり、「幸せ度」を考えたりすることを通して、がまくんとかえるくんの気持ちを読み取り、2人になりきって工夫して音読することができるようにする。

2 準備

教師：教科書、ワークシート、電子黒板、端末
 児童：教科書、ワークシート、端末、役割カード

3 人権教育の視点

○感性：手紙を待つがまくんとがまくんに寄り添うかえるくんの心の通い合いを具体的に想像し、相手を大切に作る心の温かさを感じ取る。

4 展開

【★ICT活用に関する事項】

| 主な学習活動 主な発問 予想される児童の反応〔S〕 | ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点） |
|--|---|
| <p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの、がまくんとかえるくんの「幸せ度」を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜めあて＞</p> <p>手紙をまつがまくんの気持ちと、かえるくんの思いをそうぞうしながら、なりきって音読しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりに気をつけて音読する。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてをつかむことができるように、第3場面「がまくんの家（前半）」を振り返る。 2人の気持ちを想像できるように、会話や行動、挿絵を確認するよう促す。 学習のめあてを明確にするために、声に出して読み、ねらいを意識する。 学習範囲を確認できるように、第4場面「がまくんの家（後半）」を音読する。 |
| <p>2 2人の登場人物の会話について、気持ちを想像し、ワークシートに書き込む。（10分）</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>手紙をまつがまくんの気持ちと、それを見まもるかえるくんの思いをそうぞうして、ワークシートに書きましよう。</p> </div> <p>（がまくん）</p> <p>S：何で窓の外を見ているのかな。</p> <p>S：不思議だな。</p> <p>S：何を言ってるの。</p> <p>S：驚いている。</p> <p>S：ありがとう、かえるくん。</p> <p>（かえるくん）</p> <p>S：かたつむりくん、早く来ないかな。</p> <p>S：言っちゃおうかな。</p> <p>S：本当だよ。手紙、来るんだよ。</p> <p>S：がまくんよろこんでくれるかな。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自力解決やペアでの交流、全体での交流を通して、がまくんとかえるくんの「幸せ度」を考える。 2人の登場人物の会話について、どのような表情・口調・様子だったのかななどを具体的に想像できるように、ワークシートに書き込むよう促す。 「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ」など、短い言葉に込められたがまくんの気持ちを想像できるように、考えを促す。 想像できない児童にはヒントになるように、友達の考えを参考にするよう助言する。 多様な考えに触れさせたり、記入のヒントにさせたりできるように、ペアや全体で交流するよう促す。 自分が想像したことを堂々と伝え合うことができるように、お互いの感じ方や考え方を認め合う雰囲気づくりを行う。 <p style="text-align: right;">【★提示・配布】</p> |

| | |
|---|---|
| <p>3 気持ちを込めて、役割読みをする。 (15分)</p> <p>手紙をまつがまくんの気持ちと、かえるくんの思いをそうぞうしながら、なりきって音読しましょう。</p> <p>(がまくん) S：うれしいな。 S：手紙を初めてもらえるよ。 S：かえるくん、ありがとう。 S：悲しそうだから、暗そうな声かな。 S：今にも泣きそうな感じかな。 S：がまくんのうれしい驚きが表されているね。 S：悲しい気持ちから、うれしい気持ちになったから、もっとうれしそうに読んでもいいかな。</p> <p>(かえるくん) S：がまくん、よかったね。 S：これでもう、手紙を待つ時間が悲しい時じゃなくなるね。 S：がまくんが喜んでくれてうれしいな。 S：もう少し、励ますように読むほうがいいよね。 S：かえるくんもうれしそうだね。 S：がまくんの幸せな気持ちが、かえるくんにも伝わっているね。</p> | <p>○端末を活用して、役割読みを撮影する。</p> <p>○がまくん、かえるくん、地の文に分かれて音読させる。</p> <p>○想像した登場人物の気持ちを伝えることができるように、工夫して音読するよう助言する。</p> <p>○さらに工夫して音読できるように、撮影を再生してよかったところを伝え合うよう促す。</p> <p>○再生後、次の読み方の工夫に生かせるように、気が付いたよい考えや、新たに思い付いた考えを友達と伝え合うよう促す。</p> <p>○再度、役割読みを撮影する。</p> <p>○思い付いた考えを自分の考えに加えることで、考えを深めることができるように、役割読みを繰り返し、友達と考えを共有するよう促す。</p> <p>○互いの表現の工夫を認め合うことができるよう、役割読みをした後、数組に発表させて全体で共有する。 【★撮影・録音・再生】</p> <p>◆ 評価項目 (思①) ワークシートの記述を意識しながら、友達に説明する姿、端末の撮影記録から、「登場人物の気持ちを想像して、ワークシートに書き込み、役割読みを活かしているか」を評価する。</p> |
| <p>4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習の振り返りをする。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の、がまくんとかえるくんの幸せ度を確認する。 ・分かったこと。 ・もっとやってみたいこと。 ・友達の考えでよかったこと。 | <p>○第4場面「がまくんの家(後半)」を振り返る。</p> <p>○本時の学習を振り返ることができるように、分かったことや気付いたことを具体的に書くよう促す。</p> <p>○学習を通して、自分達の学びを実感できるように、「やっぱり」「すこしかわって」「とてもかわって」～ということが分かったなど考えの変容も含めて振り返るよう助言する。</p> |
| <p><まとめ・振り返り></p> <p>S：落ち込んでいたがまくんをよろこばせようとかえるくんがお手紙を出したことは、がまくんの気持ちをとても変え、幸せになったと分かりました。幸せ度が2人とも上がり、うれしかったです。ぜひ、1年生に聞いてもらいたいです。</p> | |

5 板書計画

ふりかえり

かえるくん

がまくん

本時の場面
の、がまく
んとかえる
くんの挿絵

めあて

お手紙

手紙をまつがまくんの気持ちと、かえるくんの思いをそうぞうしながら、なりきって音読しよう。

(↑前時の振り返り挿絵)

挿絵

挿絵

挿絵

二人の幸せ度